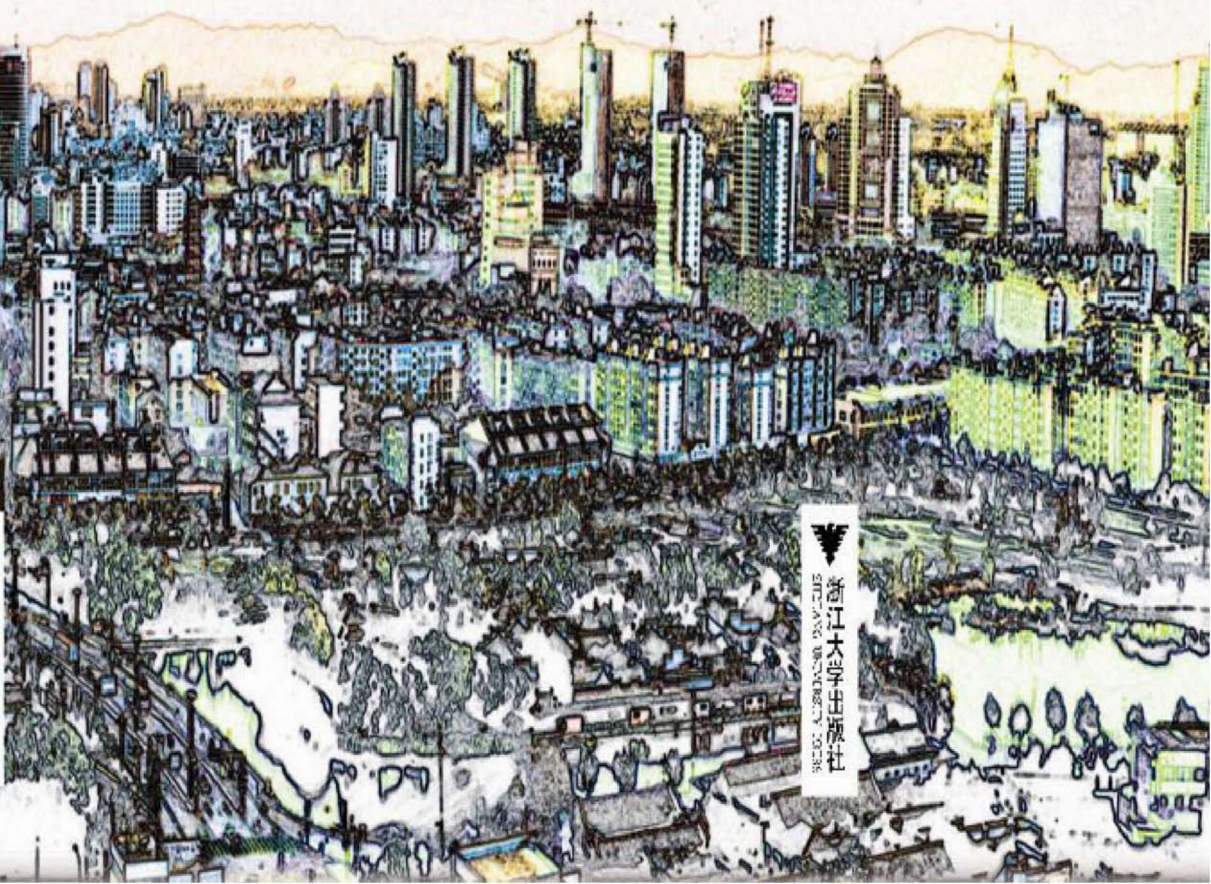


主 编 范 谊
副主编 南佐民 邵益珍 朱佳栋

宁波

—— 这方水土这方人

寧波：その土地とその人々



浙江大學出版社
ZHEJIANG UNIVERSITY PRESS

宁波——这方水土这方人

寧波：その土地とその人々

主 编 范 谊

副主编 南佐民 邵益珍 朱佳栋

日文编译 李广志 张正军 杨建华 刘永岚



ZHEJIANG UNIVERSITY PRESS
浙江大学出版社

图书在版编目 (CIP) 数据

宁波——这方水土这方人 / 范谊主编.
—杭州: 浙江大学出版社, 2010.12
ISBN 978-7-308-08179-5

I. ①宁… II. ①范… III. ①宁波市—概况—日、汉
IV. ①K925.53

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 227330 号

宁波——这方水土这方人

范 谊 主 编

责任编辑	杜玲玲
封面设计	姚燕鸣
出版发行	浙江大学出版社 (杭州市天目山路 148 号 邮政编码: 310007) (网址: http://www.zjupress.com)
排 版	杭州求是图文制作有限公司
印 刷	杭州杭新印务有限公司
印 张	22.25
开 本	787mm × 960mm 1/16
字 数	420 千
版 次	2010 年 12 月第 1 版 2010 年 12 月第 1 次印刷
书 号	ISBN 978-7-308-08179-5
定 价	45.00 元

版权所有 翻印必究 印装差错 负责调换

浙江大学出版社发行部邮购电话 (0571) 88925591

序 言

关于宁波，学术界有一个悖论性的命题：古老的宁波文化正当其青年时代。说它古老，因为它拥有 7000 年前的河姆渡和傅家山文化，公元前 222 年置县，唐宋以来始终是我国重要的对外商埠港口，有亚洲现存最古老的私人藏书楼。说它年轻，是指它仍表现出年轻的文化心态：充满对未来的憧憬，洋溢着青春的活力，敢于创业创新，善谋发展，广纳四方英才，决无排外守旧的狭隘心理。它不是一个移民城市，却具有移民城市海纳百川的气度与包容。宁波文化的品格，可浓缩于其开放、开拓和开明的包容性和进取精神之中。

2009 年，宁波人均 GDP 达 8653 元，位居浙江省第二。全年全市实现财政一般预算收入 966.2 亿元。宁波港万吨泊位 67 个，可停靠 30 万吨巨型船舶，集装箱航线 200 多条，中远洋航线 114 条。2009 年货物吞吐总量达到 3.84 亿吨，占大陆港口第二，集装箱吞吐量达到 1042.3 万标箱，居大陆港口第四。宁波城乡居民收入比为 2.165:1，是中国大陆城乡发展最协调的城市之一。在“2009 年中国十大最具幸福感城市”中，排名第 3；在“2009 年中国十佳宜居城市”中，名列第 5；在“福布斯 2009 中国大陆最佳商业城市排行榜”中，排名第 5。2008 年 5 月 1 日，长达 36 公里的世界最长的跨海大桥在宁波建成，全部建设资金由宁波自行筹集。宁波已经拥有普通和成人高校 15 所，在校生 18.86 万人(其中成人高等教育在校生 5.2 万人)。与世界各地 27 个城市缔结为友好城市和友好交流关系城市。一个面向世界的现代化港城正像东方的朝阳，在这块古老的土地上喷薄升起。

本书是宁波市政府网站外语版的成果精粹。2005年，为了让世界更好地了解宁波，让宁波更好地走向世界，宁波市人民政府决定建设宁波市人民政府门户网站外语版。通过市场招标，市政府办公厅信息中心于2005年委托宁波大学外语学院维护宁波市人民政府门户网站的英语、日语、德语、法语、韩语五个外国语种的版本。双方以努力打造宁波国际形象为共同目标，在网站内容维护方面开展了真诚而有效的合作。六年来，网站通过五个语种向全世界共发布四百多万字的信息报道。2007年、2008年、2009年、2010年在中国社会科学院信息化研究中心和国脉互联政府网站评测研究中心举办的“中国政府网站国际化程度测评”活动中，宁波市人民政府网站外文版连续位列全国地方政府第一名。

在大量文字和图片信息的基础上，我们精选了部分内容，以中日文对照版的形式，全方位地展示宁波的人文历史、文化传承、经济建设、风土人情、社会发展、景观风貌等各方面的成就，把电子信息转化成为永不消失的记忆年轮。它将作为宁波的一张亮丽的名片，跟随我们的政府代表团、企业代表团、文化事业代表团走向世界各地；它也可以作为馈赠礼品，赠送给每年来自世界各地的千千万万个访甬团体和个人。它就像蒲公英的花蕊，风到哪里，它就飘到哪里，带去家乡的祝福和问候，带去宁波的风采和欢迎。

范 谊

二〇一〇年十一月十六日

目次（目録）

寧波人の故郷	1
自然環境	3
新しい姿の古都	24
浙東大港	30
寧波港	37
明州歲月	43
寧波ビジネスグループ	49
明州人物	60
旧跡名勝	75
三江の風情	103
寧波名物	129
伝統工芸品	131
海や山の幸	141
郷土料理	154
寧波方言	161
寧波の諺	163
「寧波邦」とピジン語	176
甬人故里	186
自然環境	188
古城新貌	205
浙東大港	210
寧波港	217
明州歲月	222
寧波商幫	227
明州人物	235
四明勝迹	246
三江風情	273
甬上物華	293

工艺名品·····	294
山货海味·····	302
名点名菜·····	312
宁波方言·····	318
宁波谚语·····	320
宁波帮与洋泾浜·····	339
附录（付錄）·····	349

寧波人の故郷

寧波は「甬」と略称される。中国の東海に面し、長江デルタ地域の東南部に位置している。総面積は9817平方キロメートル、そのうち2009年市内面積は2462平方キロメートルある。現在、海曙、江東、江北、鎮海、北侖、鄞州という六つの区と、象山、寧海という二つの県と、余姚、慈溪、奉化という三つの県クラスの市を管轄している。2009年末の統計によると、戸籍人口は571.02万人で、そのうち、市内の人口が221.83万人である。出生率は7.92‰、死亡率は6.02‰、自然成長率が1.90‰である。

寧波は歴史が古く、7000年余りの文明を持つ「河姆渡文化」の発祥地である。唐代において、すでに「海のシルクロード」の出发点として、揚州、広州と並んで、対外貿易の三大港湾となり、また、宋代には広州、泉州とともに、貿易港のトップスリーとなった。鴉片戦争以後、『南京条約』によって開港された五つの通商港口の一つである。

寧波は美しい港町であり、歴史文化名城であり、また豊富な文化財を誇る観光都市でもある。寧波は伝統を受け継ぎながら活気が溢れている。自然の趣が都市の韻律とよく融合している。寧波は

「東方大港、河姆渡文化、名人故居、儒商の源、仏教聖地」という美名を持つ土地である。寧波の山水は変化に富む特徴を持ち、人々の心をひきつける。「雪竇山の奥深い谷に滝をかけ、断崖絶壁が聳える千丈岩」という詩で詠まれているように蒋介石の故郷である溪口鎮の雪竇山が国家風景名勝区と指定されている。また、「西湖のあでやかな姿を持ちながら、太湖の勇ましい勢いを有する」東錢湖、「白い砂浜、果てない青空」が見える松蘭山、透けてみえる肌にやさしい天明山の南溪温泉、依然として聳えている招宝山の海防遺跡などの数え切れない旧跡名勝がある。



そして、寧波には多くの名人が集まっており、文化事業、科学技術が進んでいる。史上レベルの高い、地方特色のある学派がいくつか確立された。たとえ

ば、四明学派、陽明学派、浙東学派などが挙げられる。それと同時に、虞世南、高則誠、王守仁、朱舜水、黄宗羲、万斯同、全祖望、張煌言などの文化名人が現れた。寧波には蔵書文化も深く、蔵書が何万冊を超える蔵書楼が大量に現れ、400 年以上の歴史を持つ天一閣蔵書楼がアジアでトップとされている。王守仁によって創立された「陽明学派」は海外にも伝わっていた。黄宗羲が提唱した「浙東史学」が中国史学界に強い影響を与えた。

寧波の仏教文化も名高く、「二十里行くと松林が尽き、青山が梵王宮を捧げる」という詩がまさに禅宗五刹で第二位である天童寺の描写である。阿育王寺には釈迦の舍利が珍藏されている。雪竇山が全国の仏教の五大名山の一つで、保国寺が長江の南部で最も古い木造建築である。

奥深い文化はたくさんの伝統工芸を生み出された。例えば骨と木の象嵌、寧波式家具、赤金の木彫、金銀の彩り刺繍などがあり、いずれも材料を厳選し、技術がすばらしく、ユニークなスタイルを持っている。

寧波は中国商人の発祥地でもあり、有名な華僑都市でもある。「寧波邦」は国内外に名を揚げている。現在 67 の国と地域で約 30 数万の「寧波邦」の後裔が活躍している。

今日、寧波は浙江省における経済の最も活気の溢れる都市の一つになり、5 つの経済管理権限を持つ単独計画都市の一つとされた。2009 年、一人当たり GDP は中国の都市で第 14 位である。

寧波は浙江省東部の交通中枢で、陸、海、空、川などの立体交通網が古くから形成されていた。櫟社空港が香港や全国各地の重要都市と空の便で結ばれている。「東方大港」と呼ばれる北侖港は世界でも名を馳せた優良港であり、中国で第二位の港として、上海国際海運センターの重要な一部となり、世界 100 カ国の 600 あまりの港との間でコンテナ定期便が開通される。

自然環境

寧波の位置は以下のである。東にある天台山、西にある会稽山と四明山、北にある海岸線が浙江省の最東部で相対的に独立した一つの流域を作り、余姚江と奉化江はそれぞれ狭い谷と平野を流れて中部の広い平野で甬江に合流して東海に注ぐ。この特別な地理環境は寧波地域の発展に独特な方向性と特徴をもたらした。

今からおよそ 7000 年前、第 4 期の大陸陥没後の隆起により、今日の甬江流域の平原の一部が次第に山麓から海岸となった。こうして、大陸になった麓の辺りは、新石器時代の先祖が活動する舞台となった。澄みきった谷川が流れている山口には、いまでも新石器時代の遺跡や遺物を見つけることがある。河姆渡遺跡がその時代にこの地域での豊かな社会生活を表している。稲作と耜耕農業、黒陶、高床式建築は、そのユニークで豊かな文化を表すだけではなく、更に歴史の長さによって、この地は中華民族の発祥地の一つでもあり、長江流域の早期人類社会の代表でもあるということを明らかにしたのである。



地域

寧波市は東海に接し、長江デルタ地域の東南部、浙江省の東北部、中国の海岸線の真ん中、浙江省寧（波）紹（興）平原の東に位置し、東経 $120^{\circ} 55' \sim 122^{\circ} 16'$ 、北緯 $28^{\circ} 51' \sim 30^{\circ} 33'$ に跨る。陸地では東西が 175 キロメートル、南北が 192 キロメートルに渡り、総面積が 9817 平方キロメートルある。地勢は西南部が高く、東北部が低い。南部が浙江省東部丘陵地に属し、くねくねと続いている天台山脈と四明山脈がある。山地、丘陵の面積が陸面積の 51.2% を占める。東北部と中部は寧紹沖積平原に属している。平野と盆地が陸面積の 46.8% を占める。北、東、南の三方が海に面して、海域が広く、海域総面積が 9758 平方キロメートルで、海岸線が曲りくねっている。大陸部の海岸線の長

さが788キロメートルで、沿海には500平方メートルを越える島嶼が527個、島の面積が250平方キロメートル強あり、市の大陸部総面積の2.7%を占める。島嶼の海岸線の総長が758キロある。港湾が多く、大陸にくい込んでいて、大陸に近い海域は深水航路の天然資源に恵まれている。沿海の浅瀬が杭州湾の南岸、象山港、大目洋の北岸、三門湾の北岸にあり、面積が10万ヘクタールに近い。市内で甬江の支流が多数流れている。沿海と象山港、三門湾の辺りでは、海に注ぐ谷川や独立した水系を持つ河も数多くある。余姚江と甬江が杭甬（杭州～寧波）運河の寧波流域となり、京杭（北京～杭州）大運河とつながっている。

陸地

寧波という地方は早くも五、六億年前にもう「中国の古陸地」の一部になっていた。長い地質歴史で何回の陸海の変遷を経てきた。約12万年前、第4紀氷河期にある氷期間（二回の氷河期の期間）に地球の気温が温暖化し、氷河が融けて、海面が上昇した。寧波は初めて水没され、平地は大海原になって、魚介類の世界になってしまった。最高の海面は30～35メートルに至った。この状態は約3万年続き、多くの沈殿物を積み上げた。今まで約7万～1.2万年間に、地球の最後の氷河期（つまり大理氷期）の影響で、海面は下がって、規模が大きくて長時間の海退が現れた。寧波地区は完全に露出し、地面がすぐ黄色い硬地層に覆い被さった。約1.2万年～7500数年前、ちょうど大理氷期の後で、寧波地区が再度水没され、今日の慈北平原、寧奉（寧波・奉化）平原と姚江谷間がかつては果てしなくて広がる大海原であった。約7500年前に至って、海面が下がって、やっと今日の高積平原になってしまった。昔、貴駟と兪範一帯を経由して杭州湾に注ぎ込んだ甬江は代わりに招宝山で海に注ぐようになった。今度、海面が下がった結果、低地には大小の湖と沼沢が形成された。谷間の出口で大量の陸源物質は水の流れに外へ流されて緩やかで穏やかな沖積の地形が形成された。またこれは高積平原の上に覆って、銭塘江、甬江及びその支流の長期的な氾濫を繰り返した後、その上に波に推し進められて、高積平原と湖の低地は少しずつ覆われて詰まられた。そこで新しい陸地の発育が始まり、今の寧波の地形を形成された。ここ百年以来、杭州湾の南岸、甬江と象山港の出口の両側にいくつか岸の砂浜が次第に堆積して拡張しつつある。一部の滨海平原が絶えずに外へ数キロ延長する。余姚市の羅江に発掘された河姆渡新石器

時代の遺跡の地層は直接に海相の地層上に畳んでいる。少なくとも 7000 年前に姚江谷間を含む相当大きい範囲で海水侵入の影響はもう無くなったのが明らかになった。河姆渡の北側はまた沼沢で、魚類の骨のむくろの中でコイ、アオウオ、ナマズなどがあって、ほとんどすべては淡水の魚類で、東海の海岸線までに相当な距離があることが明らかになる。あの時から、寧波には大規模な海侵がなくなった。

山脈

寧波は福建と浙江沿海の丘陵地帯の北端に位置し、全体の地形が西南部は高く、東北部は低くて、西南から東北へ穏やかに傾斜している。西南部は浙江省東部の丘陵地帯に属して、高山と丘陵が多い。東北部と中部は寧波・紹興の沖積平原に属して、地形が平坦で、河川が縦横で、土壤が肥沃である。市内の標高が 4～5.6 メートルある。市には主な山脈として四明山と天台山がある。

一、四明山

寧波の西側にある余姚、鄞県（今の寧波市鄞州区）、奉化という三つの県（市）は、嵊州市、新昌県、天台市と接している。その辺りの四明山はまた句（GOU）余山ともいい、天台山脈の支脈で、甬江と曹娥江の分水嶺である。山はほとんど 100～300 メートルの高さで、綿々と起伏しており、絶壁が聳え立ち、森林が密生している。最高峰が余姚の大長山で、海拔が 979 メートルある。二番目は奉化県の黄泥漿岡で、海拔が 978 メートルある。その次は鄞県の乳部山で、海拔が 915.5 メートルある。

四明山の由来について、『浙江通志』には、この山脈の 280 の嶺の中で大兪山という山があり、その山の頂上には「四つの岩窓」があり、形は窯宅に似て、岩窓の穴が四つあり、日月や星の光があそこから洞窟の中に透き通って入るので、「四明」というようになったと記されている。

二、天台山

天台山の主脈は天台市にあり、四本の支脈は寧海県の北西部と南西部から寧波市に伸び、象山港を経て北侖、鄞県東部の山々まで続いている。天台山は綿々と起伏しており、絶壁がそびえたつ。山の高さは 300～600 メートルあり、最高峰は寧海の双峰望海崗で、海拔が 931 メートルある。二番目は象山の東搬山

で、海拔が811メートルある。その次は鄞州と北侖の間にある太白山で、海拔が657メートルある。この山脈はもともと舟山群島とつながっている。陸海の変遷で舟山群島が大陸と分離された。

島嶼

寧波市は島が531個、面積が約524.07万平方キロメートル余りある。面積が1000ムー以上の島は五つある。一番大きい島は象山県の南田島、島に鎮を設置し、面積が12.8万ムーある。比較的に大きい島にはまた北侖区の大榭島、梅山島で、象山県の高塘島、樟頭山島がある。島の分布する状況を分析すると、ほとんど東南部の沿海に集中し、しかも多くの島が象山港と三門湾の中にある。全市の島は標高がわりに低く、陸地に比較的に近く、面積が小さくて散らばっている特徴を持っている。



港湾

寧波ではとても長い海岸線、曲がりくねった港湾、果てしなくて広い砂浜、多くて広く分布している島嶼がある。総面積は9758平方キロメートル、海岸線が1562キロメートル、中の大陸海岸線は788キロメートル、島嶼岸線が774キロメートルと、海岸線の三分の一を占める。

港湾の中、深水良港である北侖港と甬江の海への入り江にある鎮海港及び象山県の東における浙江省の四大漁港の一つの石浦港などが有名な港湾である。

地図からはっきりと見えるように、寧波は南と北が「両湾」（三門湾と杭州湾）に嵌め込まれ、真ん中が「一港」（象山港）に嵌め込まれている。この「一港二湾」は寧波の港湾と砂浜のことを描いた。これらの港湾には錢塘江と甬江及び数多くの小川が注ぐだけではなく、長江口の南に位置するため、大量な土砂に栄養物質が混じっている巨大な低塩水系も港湾の沿岸まで流れ込んでいる。砂浜と近海の生物に豊かな飼料を提供している。

一、象山港

象山港は寧波市の海岸線の真ん中の部分に位置している。港湾の南に象山県

と寧海県があり、北に奉化県、鄞州区、北仑区があり、港が舟山海域と隣接している。港湾は口が小さくて、水が深くて、東北から西南まで大陸に突っ込んでいる長くて狭くて半分が密封している海湾である。これは海運港にもなっているし、それに、生態環境に恵まれているから、国内にも珍しい理想的な海水養殖基地と砂浜養殖基地でもある。象山港は縦の長さが 60 キロメートルあまりで、平均の深さが 10~15 メートルあり、水が深くて澄んでいる。港には西滬港と黄墩港などの優良内港がある。港の外側には 59 個の島からなっている群島があり、総面積は 89 万畝で、その内水域の面積が約 65 万畝があり、砂浜の面積が約 25 万畝がある。

象山港には台湾海峡の暖流と黄海の寒流が流れ混じっているし、それに沿岸の 80 本あまりの河も港湾に注ぎ込んでいるので、内外の水交換が活躍になり、栄養成分も豊富になり、プランクトンの年平均産量が東海より少し高くなり、温度や塩の含有量や酸素の含有量や PH などが海洋生物の生息、繁殖と成長にも適当している。調査によると、すでに分かっている経済的な生物には、魚類は 120 種類あまり、エビ類は 30 種類あまり、蟹類は 50 種類ぐらい、貝類は 60 種類あまり、藻類が 40 種類あまりある。

二、三門湾

三門湾は寧波市の最南端に位置している。その北側は象山県と寧海県、その南側は台州地区の三門県である。三門湾は奥が広く、湾口から湾底までの縦の深さは 40 キロメートルあり、幅が広く、浅い海湾である。三門湾の総面積は 91.9 万畝あり、その内、寧波市に属している面積は 60.3 万畝ある。砂浜の面積が 26.7 万畝あり、水域面積が 33.6 万畝あり、三門湾の中に、瀝洋港、胡陳港、岳井港などの優良内港がある。三門湾では風も波も穏やかで、砂に富んでいて、砂浜がゆっくりと積み重なっている。湾内の水の底には沖積した厚い沙泥が増えている。それは細い粘土類に属し、ここの砂浜は資源に富み、開発の将来性がある。

三、杭州湾

杭州湾は寧波市の余姚、慈溪、鎮海の北側に位置し、この砂浜と言え、余姚の臨山から慈溪の西三に続く砂浜が、銭塘江の潮の影響を受け、沖積されてよく変っている。高く沖積された多くの砂浜では水草が群生し、その砂が粉状の沙土に属し、砂の直径が大きくて、潮が落ちる時この砂浜がすぐに乾してし

まう。こんな砂浜を埋めたてて田造りに適する。初步的な踏査により、杭州湾の南岸で寧波市管轄の地域においては、砂浜が 60 万畝余り、そのうち、近いうちに開発できるのは 20 万畝あまりある。実は、960 年余り前の北宋時代の慶歴七年（1047 年）に、湾岸当たりの住民は最初の泥土の防潮堤を造った。660 年余り前の元代の至正元年（1341 年）に、その防潮堤は石で造り直され、それは「大沽塘」と言う。明代の初め（14 世紀末）に至り、現在の臨山、泗門、周巷、澣山、上林当たりはまである浜辺であった。大沽塘の北側にある慈溪のほとんどは、明代以降で徐々に埋めたてて造られた。その間、海の砂浜で七本の防潮堤を造った。現在はまた第八、九本の防潮堤を、第十本の防潮堤を造っている鎮と郷もある。



潮汐

寧波市沿岸の潮汐が不規則の半日型に属し、一日に満ち潮と引き潮が二回あり、毎回の満ち潮と引き潮の高さが昼間と夜間で違う。満ち潮の平均の高さが 3.14 メートル、最高の潮が 4.86 メートルで。引き潮の平均の高さが 1.47 メートルで、最低の高さが 0.13 メートルである。甬江の鎮海の入江における潮が旧暦の一日、十五日の 11 時 15 分に満ち、高潮が 3 メートルほど。市内の「三江口」での高潮は農曆の一日、十五日の 1 時に満ち、2 メートル以上上る。普通、「農曆八日、二十三日には潮は最も低いが、翌日の九日、二十四日にはまた満ち上がる」と言う。

水文

寧波市の河川は二種類に分けられ、一つは寧波市の中部と北部を流れる甬江水系を主とする平原型河川で、もう一つは寧海県、象山県にある山溪流型の河川である。甬江水系は余姚江、奉化江と合流した後形成されるものである。流域面積が 4518 平方キロメートルで、年平均の流量が 25 億立方メートルある。甬江水系の川（奉化江は例外）は甬江に流れる前に全部堰の水門を配置して淡水を蓄え、塩化を防ぐ働きがある。

全市は地表水の年総流量が 67.24 億立方メートルある。内陸の河川網は鄞州区東部と西部、江北区、余姚市、慈溪市などの平原区に分布し、多くの湖とダ

ムが散在している。そのうち、東錢湖は浙江省で最大の内陸湖で、貯水面積が 89 平方キロメートルで、普通の貯水量が 4429 万立方メートルある。甬江流域各地の降水日が 120 日～200 日ぐらいある。降雨量は一年に二つのピーク時と一つの最低期があり、ピークが 6 月の梅雨季節と 9 月の台風季節に現れて、最低期は 7 月の副熱帯高気圧の影響を受けた乾季に現れる。降雨量は東北から南西へ少しずつ増加する。沿海と余姚市北部地帯の年平均降水量は 1200～1450 ミリある。

水系

寧波は江南の水郷で、主に甬江流域の水系に属し、それは浙江省の八大水系の一つとして、河川には余姚江、奉化江、甬江がある。

一、甬江

甬江は余姚江と奉化江という二本の川が市内の三江口で合流した川である。北東へ流れ、招宝山を経て東海に注ぐ。全長は 105 キロメートル、流域面積は 4581 平方キロメートル。幅が 270～404 メートルある。最大水深が 6 メートルぐらいで、浅瀬がほぼ 3 メートル、流れがくねくねしているところもあって、河口がラッパ型で、潮汐の現象が多発している。

二、奉化江

奉化江は三江口までは甬江の主流で、奉化市の斑竹郷にある秀尖山の東南麓に源を発し、南西から北東へ流れ、亭下、溪口、肖王廟を経て江口鎮までの流れは剡江と言い、そして、支流としての県江、東江、樟溪（鄞江）に合流し、寧波市内の三江口で甬江に注ぐ。全長が 98 キロメートル、流域面積が 2223 平方キロメートルある。

三、余姚江

余姚江は甬江の主流の一つで、上虞県の梁湖鎮に源を発し、北西から南東へ向かい、上虞、余姚を経て、寧波市の三江口で甬江に流れる。川の流れがくねくねして、水流がゆったりする。全長が 105 キロメートル、流域面積が 2940 平方キロメートルある。

上述の三本の川の流域以外、市内と隣接している鄞県の東郷と西郷に各 3

本の淡水川がある。東郷に前塘河(即ち横溪河)、中塘河、後塘河がある。西郷に南塘河、西中塘河、西塘河がある。以上合わせて「三江六塘河」と称され、寧波地域の河流運輸と水利灌漑を構成している。東錢湖と皎口ダムの水を市民の飲用水として利用される塘河もある。寧波市を源に流れる河は寧海県の白溪、清溪、婁溪と楊溪がある。

土壤

寧波市の土壤は主に赤土と黄土である。水路網の平原には浅紅土、黄土と青紫土、稲、油菜や麦などの栽培に適する。丘陵山地の土壤は山地黄土、黄土と黄砂土があり、黄土に属し、竹、果物やサツマイモなどの雑穀の栽培に適する。河谷地域の土壤は泥土や砂土等がある。

植生

寧波市は北亜熱帯の南側に位置するので、植生は主に南方植物である。植生は高木、低木、草で種類が豊富である。その内、高木はクス科の植物の葉の特徴を持っている。山岳地帯の自然植生は亜熱帯常緑広葉樹を主にし、落葉広葉樹との混交林である。代表的な樹種がクス、杉、竹、赤松である。ところが、人間の長期にわたる耕作によって、天然植生が大部分農作物の田畑になった。平原地帯の農作物は主に稲、棉、油菜、蚕豆、麦、レンゲ、野菜などである。山岳地帯は赤松、杉、竹のほか、現在茶、ミカン、桃、梨なども栽培してある。



氣候

寧波は亜熱帯モンスーン氣候に属し、温暖湿潤で、降雨量が多く、四季がはっきりしている。春と秋はやや短く、冬と夏は少し長いという特徴がある。冬はシベリアからの寒気の影響で低温で乾燥する日が多い。夏は亜熱帯高圧帯の下で、高温で多湿となる。春と秋は季節風の転換期で、低温で雨天が続く。年間平均気温が16.4℃で、一月が一番寒く、平均気温が4.8℃ある。七月が一番